

## 2022年3月期第2四半期 決算IR説明会 質疑応答概要

株式会社メイテック

1. 日 時 2021年10月28日（木）16:00～16:30

2. 場 所 オンライン会議

### 3. 質疑応答

質問 上半期の実績は稼働率が想定をやや下回ったようですが、一方で通期の業績予想や社長のご説明のトーンから、かなり引き合いが戻ってきていると感じました。特に月次の稼働率を見ると、第2四半期が強かったようですが、なぜ稼働率が急激に良くなったのでしょうか。

回答 要因は2つございます。1つ目はお客様サイド、2つ目は当社グループサイドです。1つ目は、新型コロナウイルス感染症拡大が一段落しつつある中で、お客様サイドの業務体制が整ってきました。その上で、お客様が積極的に技術開発投資を進めてきており、当社グループとして受注を促進できる環境になってきた、ということがございます。2つ目は、現中期計画「The Transformation」において、お客様の潜在的なニーズを顕在させるよう積極的に提案活動を行い、受注を獲得して成約につなげ、結果としてお客様により良いサービスを提供する、という戦略に取り組んで参りました。その取り組みに上半期で進展があった、ということでございます。下半期におきましては、お客様の状況を踏まえながら、戦略をより加速することに取り組んで参りたいと考えております。

質問 （上記の回答を受けて）ハイレベルなエンジニアの取り合いが活発化していて、特にメイテックは業界の中でもハイエンド領域を営んでいるので、需要の戻りを強く捉えやすいポジションにいた、という理解でよろしいでしょうか。

回答 そうですね。特にメイテックは、お客様からハイエンドの業務を任せいただくケースがたいへん多くございます。上流の業務を任せてもらえるということは、そのプロジェクトの上流に続く業務の需要も捉えやすい、と考えております。

質問 来期以降に向けた事業の在り方について、教えてください。  
新型コロナウイルス感染症拡大の影響を反映していない現在の中期計画では、来期に向けてかなり高い利益目標を掲げていると思います。  
かねてから、技術レベルをさらに上げて収益性を高めていきたいという方針を示されていましたが、来期以降についても、売上高成長以上に利益率を上げることで利益の拡大を目

指すお考えなのでしょうか。それとも、今期まで遅れた分を、より積極的に採用を進めなければならぬので、売上に即した利益成長を目指しているのでしょうか。  
来期以降の増益の考え方について教えてください。

回答 結論から申し上げますと、3ヶ年計画の最終年度目標に対して取り組んでいくという意思は変わっておりません。3ヶ年計画のスタート時点において、新型コロナウイルス感染症拡大という想定外のことは起きましたが、世の中でそのような環境変化が起きることによって、技術的なイノベーションがより加速していることを実感しています。  
従って、従前からの技術革新に加えてコロナ禍の環境変化に対しても、技術を通じて、世の中に貢献していくことが、結果としてお客様の満足にもつながりますし、当社グループのエンジニア社員の成長機会として重要であると考えています。コロナ禍が落ち着くことを前提とするだけでなく、もしも第6波が起きたとしても、今の段階においては技術革新に対して展開していくという考えに変わりはありません。

以上